



見ごろを迎えた蓮の花の前に

7月14日、古代蓮の里で第16回行田蓮まつりが開催されました。

この催しでは、本市の花である「行田蓮」と、東松山市の花である「ボタン」を交換することで両市の親交を深める「花の交流イベント」も併せて行われ、工藤市長から森田東松山市長に行田蓮24株の目録が手渡されました。

会場には、友好都市の福島県白河市や健康づくり協定を結んでいる群馬県上野村の観光物産店、東松山市のB級グルメの「やきとり」をはじめさまざまな物産店が並び、趣向を凝らしたステージイベントなどと共に祭りを盛り上げました。また、蓮の実を使った蓮もちや蓮粥、蓮茶も振る舞われ、来場者は見ごろを迎えた蓮の花を目で楽しみ、舌で味わうことができました。



現場に潜む危険を見抜くために

6月9日・16日・30日、7月7日に中央公民館第1学習室（「みらい」内）で、行田市消防団方面隊訓練として初めて消防団危険予知訓練（S-KYT）研修が行われました。

この研修は、消防団員が災害現場や訓練活動中に潜む危険を見抜く力を養い、安全な活動を行うために具体的に実行できる対策を考えていくというもの。この研修を受講した消防団員誰もが、危険要因が数多く存在する災害現場でも、「安全にそして冷静に活動する」という意識を強く脳裏に植え付けることができました。



皆さんの「声」をお聴きします

6月21日、荒木公民館で荒木地区に住んでいる方を対象にした「第1回市政懇談会」が行われ、43人の方が参加しました。

市政懇談会は、市政への意見・要望や地域で抱える課題などを聴き、できることから市政に反映させるもので、当日は、武州荒木駅前の活性化や通学路の整備などの意見が寄せられました。工藤市長は参加者の意見・要望に耳を傾け、現状や今までの取り組み、今後の対応などについて説明しました。



行田公演がついに実現！

6月16日、産業文化会館で「野村萬齋 狂言 行田公演」が開催されました。上演前に、萬齋さんから演目(萩大名・蝸牛)の分かりやすい解説があり、加えて映画「のぼうの城」の撮影秘話なども紹介されました。

萬齋さんが山伏を演じる「蝸牛」は、山伏を蝸牛だと思込んだ太郎冠者(狂言に登場する役柄)を、山伏が蝸牛に成り済まして、からかうという筋書きです。

狂言ならではのユーモアあふれる話を演じる萬齋さんの動きは、磨き抜かれた芸そのもの。会場を訪れた全ての方は、狂言の素晴らしさを堪能していました。



紫色のじゅうたんを楽しみに

6月25日、水城公園あおいの池で、南小学校の3年生72人によるホテイアオイの投げ込みが行われました。

児童たちは、熊谷市在住の田中稔さんから寄付されたものと、水城公園で越冬させた合計5,000株のホテイアオイを元気よく池に投げ込みました。

ホテイアオイは9月から10月にかけて見ごろとなります。池一面に花を咲かせた様子を見に、水城公園を訪れてみてはいかがでしょうか。



晴れの舞台で、生き生きと

7月7日、産業文化会館ホールで第16回ときめきレインボーフェスティバルが開催されました。

行田市文化団体連合会に加盟しているステージ部門の全11団体が一堂に会するこのイベントは、出演者にとって日ごろの練習の成果を思う存分披露する場となっています。晴れの舞台に立った出演者たちは、かけがえのない仲間たちと心をつなげて、生き生きと表現することができたようです。



安心で安全な社会を目指して

7月12日、行田地区推進委員会主催の「第63回社会を明るくする運動行田地区大会」が「みらい」文化ホールで開催されました。

この運動は、犯罪や非行を防止するとともに、罪を犯した人や青少年の更生を地域で支えることの重要性を認識してもらうために行われています。小佐々冽子さんによる講演が行われた他、県立進修館高等学校吹奏学部による演奏が披露されました。会場を訪れた皆さんは、犯罪や非行のない社会の必要性を改めて認識していました。

